

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
平成 27 年度 事業報告

目 次

I 法人概況	1
1 はじめに.....	1
2 重点計画に対する達成評価.....	2
II 各部門別報告	4
A. 障害者支援施設「洛西寮」	4
【支援計画】	4
【各事業】	4
1. 生活介護「ちくりん」	4
2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」	5
3. 施設入所支援（夜間支援）	7
【各サービス内容】	8
1. 健康管理.....	8
2. 食事の提供.....	9
3. 歩行訓練.....	10
4. 余暇活動支援（共通の活動）	11
5. 買い物支援サービス.....	12
6. ボランティア支援サービス.....	12
B. 三療事業部	13
1. 盲人ホーム 美鈴.....	13
2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」	15
C. 法人	16
1. 事務局.....	16
2. 点字出版施設「紫野点字社」	19
3. 京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	20
4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」	22
5. 主催行事.....	23
6. 共催事業.....	26

I 法人概況

1 はじめに

国は、社会福祉法人改革を中心に据え、障害者総合支援法の改正に備え、障害者差別解消法や改正障害者雇用促進法などの整備に力を入れた1年となった。そんな中で、移動と情報・コミュニケーションの障害を抱える視覚障害者にとっては、今なお施設利用における同行援護の利用や日常生活用具給付制度から切り離された実態がより明らかになった。私達は、常に地域の中で分け隔てられることのない社会を求める「障害者差別解消法」の理念を実現する立場からも、障害者の社会参加に向けた法・制度の整備が一層推進されることを願わずにはおられない。なお、この件については、京都市に対し、直接要望活動を行い、施設の現状をお伝えすることができたことは例年にない成果であった。

全国的に特筆すべき動きは、65歳までに障害者福祉サービスが公的支援によって賄われるのに対し、65歳を超えた障害者が介護保険の名のもとに、1割負担が背負わされ、同じ障害程度でありながら、制度が違うことによって「65歳問題」に象徴されるように、障害者に対するサービスが異なる矛盾が全国的に議論を呼んだ。このようなことも含めて、障害者福祉サービスの根幹である障害者総合支援法が限りなく介護保険との統合の方向へ傾いている動きが危惧されるところである。

京都においては、本法人が京都府から受託している「京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業」において、京都府から平成28年度予算として、125万円が上乘せされたことは特筆すべきことである。これは、京都府視覚障害者協会が5月、京都府城陽市に開設した「南部アイセンター」の事業拡充の目的で予算化されたものであり、永年の悲願が実った年度であった。

法人全体から見ると、

一つは、洛西寮創立30周年の記念の年であり、9月の洛西寮まつり、11月の施設オープンデー、1月の30周年祝賀会、3月の記念誌発行などを通じて、施設が辿った歴史を振り返り、これからの進むべき方向を模索した1年となったことである。

二つには、法人内にある2ヶ所の三療事業所（らくさい治療院、盲人ホーム美鈴）が地域の患者ニーズに支えられ、堅調に推移した点である。視覚障害者の職域や職種が伸び悩む中であって、有資格者の働く場として、無免許業者が横行する中での実績は高く評価すべきであると共に、この水準を維持・発展させる継続的な取り組みが不可欠である。

三つには、施設整備の願いが徐々に進展し始めたことである。京都市の施設整備費を活用した居室の個室化の試み、伏見稲荷大社の寄贈による作業場の机と椅子の更新、社会福祉法人清水基金による点字製版機の更新助成の決定、そして、洛西寮館内エレベータのリニューアル化を支えた独立行政法人福祉医療機構からの借り入れ実現など、改善への大きな一歩が築かれた年となった。

2 重点計画に対する達成評価

年度当初に掲げた、八つの「重点計画」に対する取り組みの到達点と達成評価を概説したい。

1. 新しい事業推進計画の構築

(評価) …らくさい作業所の定員 20 名（登録者数最大 24 名）、平均利用率…97.85%

ちくりんの定員 20 名（登録者数最大 21 名）、平均利用率…94.7% (60%)

①働き続けられる事業所の理念の実践→施設利用者層の中に、就労支援と生活介護の二つのニーズを持つ利用者が混在していることから、今後の事業所の目指すべき方向の見定め方が検討課題。

②個々人のライフサイクルに対応した快適な生活支援の拡充→ちくりんにおける誕生日月企画の定着、入所者の居室支援の位置づけの前進、重度、重複障害に対するコミュニケーション支援や健康管理支援の取り組みの開始など。

③自立と共生の地域づくりに向けた社会貢献→ボランティア養成講習会、施設オープンデー、広報誌の発行など。

(課題) →らくさい作業所における自主製品の開発、ちくりんにおける生活支援（個別及び、小グループ支援）の再構築

2. 洛西寮創立 30 周年記念事業の成功に向けた企画への挑戦

(評価) …予定した 4 事業の達成 (60%)

①利用者本位の記念事業企画の具体化→4 事業達成ではほぼ満足。

②「利用者家族会」の結成→職員討議にも上らず不発。

③「洛西寮のこれから」検討会の立ち上げ→話しあう場は持ったが、まだ端緒の段階。

(課題) …「洛西寮のこれから」についてのビジョン検討、家族会の創設

3. 情報発信と事業の活性化

(評価) …企画は軌道に乗りつつある。(50%)

①三療ニーズの発掘に向けた事業拡充→引き続きスキルアップに専念。

②第 5 回視覚障害者支援ボランティア養成講習会の継続開催→定員の伸び悩み、開設当初の基本＝西京区内の視覚障害者支援に立ちかえる視点。

③オリジナル製品の開発等、「打って出る活動」の強化→受身的な受注販売の考え方を打破し、自主製品の開発による工賃アップの基本姿勢の欠如。

(課題) …情報発信は事業の活性化を生み出す原動力、半ば法人のエネルギーの充電が課題。

4. 利用者サービスの向上

(評価) …支援の基本が揺らぐ。(30%)

①施設入所支援における夜間の危機管理と休日の日中支援の拡充→制度の壁に阻まれた 1 年。

②事業所別の特色を活かした個別支援プログラムの拡充→事業所のロードマップの不備、個別支援計画の立ち遅れ、支援員としての人権感覚の欠如など、あるまじき行為の発生と引き起こした施設としての反省を忘れない年にする決意を込めて。

③食事・健康管理支援におけるチームワークの拡充→外部業者とのマッチングや連携の難しさはあったものの、新たな健康管理支援の拡充、チーム支援の可能性など、新しい前進も見られた。

5. 職員の資質向上、研修の拡充

(評価) …量的には派遣することができたものの、質的には伝達研修や報告の活かし方の不十分さなど課題はまだだ。(50%)

①各種対外研修会への職員派遣→相談支援を中心に、経理事務、制度学習、行政説明会などに派遣した。

②事例研究・学習会の開催→外部講師を招いた学習会を年3回実施。個別支援を活かした事例学習会の企画にまでは及ばなかった。

③「全国盲重複研究会」への主体的な参加→総会への派遣、広報誌への原稿掲載などは行えたものの、積極的に研究会への参加や主体的な報告などはできなかった。

(課題) …意識的な取り組みになっていない。

6. 安心・保健衛生対策の拡充

(評価) …個室化の実現、健康管理支援の拡充が大きな前進。(50%)

①洛西寮内の居室環境整備計画の具体化→京都市予算補助を得て個室化の試みを実現。とりあえず、静養室として機能した。

②安全防災に関する年間計画の策定→年間計画に位置付ける議論が未成熟。

(課題) …入所施設支援の一環としての位置づけで課題の整理と計画づくりが課題。

7. 財政運営の健全化

(評価) …今期は、過誤請求による想定外の事態が発生した。(30%)

①施設利用者の安定確保→登録定員は満たせたものの、平均の利用率や支援区分の低下などから効率的な財政運営に支障をきたしている。

②支出節減・エコ対策→意識的な取り組みになっていない。

(課題) …未然に防ぎ得なかった反省と原因分析が課題。

8. 後援会活動の拡充

(評価) …創立記念事業の後押し、読み書きサービスの継続などが成果。後援会長の交代があった。(80%)

①洛西寮創立記念事業の後押し→財政的、人的支援を含めて年間を通じて創立記念事業を後押しした。

②施設と地域を結ぶ企画の具体化→読み書きサービスはボランティアの支援を得て、施設利用者の利用にまで拡大した。

(課題) …治療院の地域宣伝に向けた健康教室の定期的な開催など、粘り強い取り組みが課題。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」

【支援計画】

概要

今年度より、総合的な支援計画を作成するため、栄養ケアマネジメントと支援計画会議を一緒に実施した。また、それに伴い様式の変更も行うことで、効率化を進めた。

その他、支援計画会議を全支援員で行うことを重視し、事業所を越えた共通認識の確認や、新規職員が利用者1人1人についての理解を深める場とした。

書類作成優先ではなく、深く利用者について話し合うことで、より良い支援につなげられるよう努めた。

【各事業】

1. 生活介護「ちくりん」

概要

日中活動（生産活動・レクリエーション等）及び利用者ニーズに応じた個別支援を実施し、生活の質の向上に努めた。

成果

- ・利用者のニーズを汲み取りレクリエーション及びバースデー企画を実施した
- ・毎週金曜日のレクリエーションプログラムの実施に伴い、利用者の興味・関心のある内容を取り入れ企画し、参加者も多く好評だった
- ・全員参加での日帰りレクリエーション企画を実施した
- ・生産活動、レクリエーション等においてボランティアの協力が得られた
- ・生産活動においては、昨年同様の生産量を維持できた
- ・作業環境の整備（作業機、作業椅子の新規購入）

課題

- ・個別支援計画に基づいた利用者対応が職員間の共通認識になっていなかったことに加えて、支援の基本的な学習の不足、チームワーク支援の欠如などが引き金となって支援の基本が揺らぐ事態が生じた。

- ・利用者ニーズに基づいた個別支援計画の立て直しとちくりんのあるべき姿についての議論と実践が不可欠となった。
- ・年間ロードマップの作成と実践、会議運営の改善、支援学習、虐待研周の拡充などの目標を掲げて課題解決を目指す。

実績

- ・日中活動一覧表

科目	内容
生産活動(箱作業)	京菓子箱：八つ橋・ようかん
調理実習	よもぎ団子、かき氷、月見団子、鬼饅頭、抹茶体験等、
外出	花見、喫茶、ボーリング、カラオケBOX、買物、
創作活動	タオル染め、貯金箱作り、七夕飾り作り
娯楽	カラオケ、DVD鑑賞、デイズ、ティータイム
ちくりん行事	日帰りレクリエーション（グリコピア神戸）、餅つき、忘年会（外食）
バースデー企画	誕生日月に希望先に外出
その他	健康体操、卓球バレー

- ・工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
252月	17,627時間	3,298,516円	13,089円	187.1円

2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

概要

らくさい作業所の方針「働くことを通して社会性を身につけ、人との関わりを学ぶ」に基づき、協調性・責任感・作業意欲を意識できるように働きかけ、それぞれの利用者が作業を通して様々な経験が積めるように支援した。継続して支援することで、少しではあるが、意識して行動している部分も見えてきた。

生活支援においては、個々の利用者に応じた支援の強化に努めた。又、必要に応じ、利用者との話の場を設け、家族や関係機関との連絡・相談を重ねる事で、より密な連携を深めた。

成果

- ・通所者の登録利用者が増え、年度末には24人となった
- ・様々な作業を行う機会を作ったことで、特定の利用者しか出来なかった作業が減り、生産アップにつながった
- ・利用者による、朝礼当番、バザー販売の報告、レクレーション企画など、利用者主体で取り組み、自主性を促す環境作りに取り組んだ
- ・作業中でも柔軟に個別相談の時間を設けたり、入所利用者の生活支援を月に1度ではあるが定期的に実施し、生活の質の向上に努めた
- ・作業場の整理を進め、作業効率が上がった
- ・支援員の異動や役割変更があったが、大きな混乱もなく作業を継続できた
- ・作業環境の整備（作業机、作業椅子の新規購入）

課題

- ・点字校正者の育成
- ・様々な作業にも対応できる従事者の拡充
- ・利用者のできる作業、かつ、売れる商品作り
- ・自主製品の価格・内容の見直し
- ・利用者の自主性・協調性を養う環境づくり
- ・利用者個々の障害特性に合わせた支援
- ・生活支援の時間確保、質の向上
- ・作業スペース・安全確保
- ・就労支援及び方法等の職員研修、スキルアップ
- ・適正且つ、わかりやすい工賃評価作成
- ・工賃向上に向けた目標設定と売上管理

実績

- ・作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、選挙、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生 PR ポスター等
ミシン縫製	下請：和装用袋、袋物 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

・売上

科目	売上（円）
点字	9,844,408
自主製品	662,000
縫製下請	476,176
箱作業	728,136
数珠加工	180,554
黒豆茶	369,650
自販機	296,952
合計	12,557,876

・工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
278 月	22,202 時間	6,837,462 円	24,595 円	308 円

3. 施設入所支援（夜間支援）

概要

夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策の問題点、課題分類と方向性について検討を行い、夜間支援における安全・安心な生活の質を高めるための生活環境作りに努めた。

今年度6月より午後8時までの複数支援員体制（遅出勤務）を試み実施した。

成果

- ・遅出勤務体制により、利用者個々の相談、生活支援、夕食時の見守り、館内巡回強化（特に夕食前の巡回徹底）により、利用者間のトラブル等未然に防ぐことが出来た
- ・居室の間仕切りによる個室化モデルルームの完成及び利用者への見学会の開催
- ・年末年始等の長期休暇時の救急対応マニュアル作成（待機責任者分担表）
- ・緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持した
- ・長期休暇及び、週末の申し送り業務の周知徹底
- ・休日及び夜間想定防災訓練の実施

課題

- ・夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策における夜勤職員複数化の継続検討
- ・衛生環境の強化（居室、館内等共用部分）
- ・複数支援員体制による利用者支援の拡充
- ・休日及び長期休暇の余暇活動の実施

【各サービス内容】

1. 健康管理

概要

- ・利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
- ・単独通院が困難な利用者や急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

成果

- ・定期的な体重・血圧測定の実施、経過把握を行った。また通所者・単独通院者に関しては、適宜、各主治医へ文書にて報告、相談する事で、医師との連携を図り、より身体状況が把握出来た
- ・救急時や通院介助時、利用者緊急用カルテを活用した
- ・利用者緊急用カルテの整備・点検を行った
- ・館内・手すり・流し等の消毒、うがい・手洗い・換気・マスク励行、全員の検温等迅速に対応し、本年度はインフルエンザの発症者はなく、感冒の感染拡大もなかった

課題

- ・静養室の未整備
- ・AED設置・救命講習の実施

実績

- ・利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(8・2月は全員)	139	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
		マラソン出場希望者			
	寮内健診	全員	508	洛西寮看護師	洛西寮医務室
4月	胃癌検診	40才以上	4	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40才以上	8	京都予防医学センター	洛西支所
8月、1月	歯科健診	8月全員、1月希望者	57	京都府歯科医師会	洛西寮医務室

7月	基本健診	全員	40	鳥羽健診クリニック	洛西寮
6月	子宮癌検診	20才以上女子	4	医療機関	洛西NT病院
1月	眼科健診	希望者	6	医療機関	洛西NT病院
12月	乳癌検診	30才以上女子	6	京都予防医学センター	洛西支所
7月、2月	耳鼻科健診	希望者	30	医療機関	豊田医院

・通院件数

年度	通院件数
22年度	420
23年度	566
24年度	716
25年度	690
26年度	596（うち介助 413）
27年度	479（うち介助 390）

2. 食事の提供

概要

- ・入所者の高齢化と、栄養ケアマネジメントの導入により、さらにきめ細やかな食事対応が急務であるが、それに伴いパート調理員の技量向上、衛生面の課題改善のため、平成27年度より給食業務の委託化を実施した（調理責任者1名・栄養士1名配置）
- ・調理場の清掃、調理器具の使い分け、害虫駆除等の衛生管理に努めた
- ・医師の指示に従った療養食の提供と、検診結果に基づく栄養指導を実施した

成果

- ・食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた
- ・栄養ケアマネジメントを導入し3年目となり、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行い、評価・個別指導を行うことができた（肥満の改善、検査数値改善）
- ・給食業務を委託化したことにより、施設管理栄養士が利用者支援に直接関われる時間が増加した（栄養相談、生活支援、飲食を伴うレクリエーション、買い物支援 等）
- ・厨房業務を委託化したことにより調理師が配置され、適温給食の提供などニーズにあった細かな食事対応が確実にできるようになった。ティータイムでは手作り菓子の提供が可能となり、好評を得た
- ・平成27年度より遅番出勤体制となり、支援員による夕食時の見守りが可能となった

課題

- ・入所者の個別対応の増加と、通所者にも慢性疾患により特別食対応の必要な利用者が増加中であるが、給食委託会社の栄養士が不在の時期があり、一定期間対応が不十分な時期があった
- ・嗜好調査結果を確実に献立に反映させることができなかった
- ・適温給食提供については、設備的に完備できていない部分があり、28年度にはスチームコンベクションを導入予定

実績

- ・行事食一覧（平成27年度より、業務委託）

行 事	内 容
開所記念日（4/20）	赤飯、ぶりの木の芽焼き、白和え、清汁、いちご
子供の日（5/5）	鯉のぼりオムライス、チキンナゲット、ひじきの和え物、コンソメスープ、人参淡雪かん
七夕（7/7）	米飯1/2量、七夕そうめん、夏野菜のかき揚げ、すいか
クリスマス（12/24）	米飯、クリスマスプレート、ブロッコリーの和え物、コンソメスープ、ココアワッフル
お正月（1/1～1/3）	おせち料理（9種）、お雑煮（3種）、焼肉、みぞれ鍋 等
七草粥	七草粥、出し巻き卵、茶福豆、味噌汁
節分（2/3）	恵方巻き、鯛のはさみ揚げ、赤だし、節分福豆
ひなまつり（3/3）	桜ちらし寿司、オクラのお浸し、清汁、伊予柑、いちご、ひなあられ

3. 歩行訓練

概要

- ・利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した
- ・施設館内でのファミリーリゼーション（環境理解）
- ・通所利用者に対する単独通勤のための歩行訓練
- ・白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ・寮周辺店舗や歯科までのファミリーリゼーション（環境理解）。
- ・店舗などでの実践を想定した社会適応訓練。

成果

- ・4名の利用者に対して単独歩行による通所を想定した歩行訓練を行い、通所が可能になり、施設利用に繋がっている。また、5名の新しい利用者に対して洛西寮館内のオリエンテーションを始めとした移動の訓練を行った他、洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、施設での安定したQOL向上に向けた支援を提供している

- ・実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行い、視覚障害に対する理解を深めるきっかけとなった

課題

利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない。

実績（延べ人数）

- ・自宅から洛西寮への通所の訓練 4名
- ・洛西寮館内のファミリーゼーション 5名
- ・洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練 5名
- ・単独歩行の基礎技術の訓練 2名

4. 余暇活動支援（共通の活動）

概要

らくさい作業所、ちくりんととの共通活動を通して交流を深め、利用者一人一人が余暇活動を楽しみリフレッシュできる環境作りに努めた。

今年度は第1、2、4水曜日を共通活動日とし、第1、2、3金曜日は、ボランティアによる選択科目のサービス提供を行った。

成果

- ・外部講師による音楽（合唱指導）を第4水曜日に実施し、リクエスト曲や季節に応じた曲の指導を受け、音楽を楽しみ心身共にリフレッシュ出来た。今年度は、洛西寮まつり・施設オープンデー、クリスマス会の行事には、全員参加で合唱発表を行った
- ・第1、第2、水曜日は、ウォーキング、カラオケ、デイジー等を企画し多数の参加者を得た
- ・長期休暇、土日祝の日直者による日中活動の提供を行った。特に茶話会が好評であった

課題

- ・視覚障害者団体、地域等の行事・催し等の参加への働きかけと引率者の確保
- ・休日及び長期休暇等の余暇活動の提供、環境作り
- ・支援員のレクレーション内容に対するスキルアップ

実績

- ・日中活動支援
内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・招待催し
- ・選択科目

科目	利用者人数	内容
点字	6名	各習熟度に応じた点字の読み書き練習
社会	12名	テーマにそっての情報提供（新聞記事等）

5. 買い物支援サービス

概要

- ・希望者を対象に毎月一回、イオンと近所の店舗へ買い物支援をする
- ・買物を通して、地域との関わり・マナーを学んで行く

成果

- ・単独での買物が困難な利用者が安心して利用できる機会の提供、必要なものの購入意識を持ってもらうことも出来た
- ・日用品の定期的な購入等、買物を体験出来る機会を設け、知識や経験を積むことで自信へと結びついてきている
- ・支援員と一緒に同行し、目的とする品物を利用者個々に応じ、わかりやすく説明をすることで安心して買物が出来た

課題

- ・各事業所の作業時間が異なるため、日程等の検討が必要

実績

- ・年間延人数＝近所：82人、桂川イオン：21人
- ・ちくりんでは、毎週木曜日を買物支援日と設定

6. ボランティア支援サービス

概要

今年度は、総勢50名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の支援の充実を図るため、様々な分野で協力を得た。

成果

- ・洛西寮まつり（30周年オープンデー）等の行事における要員ボランティアの確保
- ・春の行事、研修旅行、休日及び長期休暇の個別の外出支援（買い物、映画鑑賞、散策等）、作業所別の余暇活動支援における手引きの確保
- ・選択科目における点字指導や社会での情報提供
- ・利用者とボランティアとの交流を深める自治会行事の実施（七夕会、クリスマス会）
- ・朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「あんな話こんな話」の情報提供及び毎週土曜日の対面朗読
- ・繁忙期における作業の協力（下請箱作業と縫製作業）

課題

- ・ボランティア登録者の高齢化
- ・休日の外出支援ボランティアの確保調整に苦慮した

実績

ボランティア登録者数 53 名（平成 28 年 3 月 31 日現在）

- ・ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	249
朗読	587
選択科目	124
手引き	132
行事	125
合計	1,217

B. 三療事業部

1. 盲人ホーム 美鈴

概要

利用者の研修及び、事業運営の要となる患者数が、今年度 6,309 名と前年比 107%と大幅に増加した。

27 年度利用者の動向は、新規利用者 1 名、修了利用者 1 名であった。

美鈴は、平成 19 年 9 月に新築開設後 着実に実績を積み重ねてきており、今年度も安定した事業運営のもと患者数増、開業による研修終了者 1 名を出す実績を上げることができた。

成果

① 患者数の推移

- ・患者数 6,309 名 目標の 6,000 名を達成
- ・鍼の患者数は 1,299 名 前年度比 116% 総患者数に対し 20.5%であり、当初目標の 20%を達成できた。京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」利用者増。延べ利用人数 341 名（昨年度 120 名）

② 利用者の技術向上のための取り組み

施術のスキルを高めることに重点をおき、指導員と利用者、利用者間で、揉み線や圧迫法・揉捏法などの技術チェックは今までどおり行いながら、患者の症状、施術方法に関して話し合いお互いの治療効果を高める事を意識するよう努力した。

③ 筑波技術大学実施「膝痛に対するマッサージによる臨床研究プロジェクト」参加

筑波技術大学 保健科学部附属 東西医学統合医療センター 近藤 宏助教授 主催によりマッサージ療法が膝の痛みや膝痛に伴う日常生活の課題にどのような効果を与えるかを明らかにする目的で実施されたもので、マッサージに関する団体や学会並びに学術紙に掲載されます。

マッサージ療法効果の根拠となる興味深い研究に参加し、施術の技術向上、施術方法 等に美鈴利用者一同意識をたかめることができ、貴重な経験となった。

④ 世界盲人連合アジア太平洋地域協議会(WBUAP)に、モデル事業所として日盲連より推薦を受けた

従来の東アジア太平洋地域協議会に東南アジア諸国のすべてが加わり、2001年9月 独自の定款を有する地域協議会として組織された。各国における視覚障害者の当事者及びその支援者などの団体が加盟する国際組織であり、職業問題への取り組み・情報通信技術の普及と文化活動等を行っている。

⑤ 美鈴利用者規定の整備を行った

⑥ 治療室レイアウト変更実施 (電動ベッド追加 治療ベッド 6台→7台)

⑦ 京都府立盲学校生徒2名・鳥居寮訓練生1名の実習を受け入れ実施した

⑧ 洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た

⑨ 船岡秋のスタンダードにて有料マッサージに参加

課題

・新患数 232名 (前年比 74%) と昨年よりやや少なく、今後、増加に努力しなくてはならない課題である。新患が昨年よりやや減少した要因として、26年度はチラシ配布した事により新患が増加したが、27年度は配布しなかったことが影響していると考えられる。

27年度は、「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」の推進活動をしたことにより、補助券利用患者数が大幅に増加した事や、利用者の技術向上による患者数増加のためチラシ配布は見送ったが、28年度は必要に応じて検討したい。

- ・美鈴の将来展望を明確にすること
- ・利用者の一般就労・開業支援システムの確立
- ・職員のスキルアップ

実績

- ・年間患者数=6,309件 (前年比 107%)
- ・年間売上=20,986,600円 (前年比 108%)

2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」

概要

開所から3年目、支援計画と三療のマッチングによって、利用者の目標が明確になり、その目標を達成しようとする行動が顕著に見られた。少しずつ目標達成することでそれが成功体験となり、モチベーションアップにもつながった。

次に、利用者が自己決定することによって、自己実現に向かう個々の成長が、らくさい治療院の実績へとつながった。また、視覚障害、三療全体の最大のニーズ（客観的必要性）は手技のスキルアップであることが、らくさい治療院の利用者を通して確認できた年度となった。

視覚障害三療の最大の強みは指の感覚の鋭さであり、それをどう伸ばし、生かしていくかが今後の大きな課題であることと、加えて免許取得から研修を得て一般就労・開業へのロードマップの作成が急務であることと、その役割を担える施設として、今後のらくさい治療院の方向性を考えた年度となった。

成果

- ・支援計画の確立により目標が明確になった利用者が増えた
- ・コーチングの試験的導入で指名数がアップした利用者が増えた
- ・利用者のスキルアップにより、最賃の減少・売り上げ・患者数がアップした
- ・利用者の自己理解が促進された（振り返る力・成果と課題の明確化・話す力など）
- ・利用者が自己決定できるようになってきた
- ・マッサージモデル試行事業の導入により、新人利用者のスキルアップが促進された
- ・洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た
- ・支援要項の完成

課題

- ・スキル管理及び指名定着支援
- ・施術に関するマニュアル作成及び管理・治療記録管理
- ・モニター制の強化（人数増加）
- ・個別のスキルアッププログラムの確立
- ・コミュニケーションスキルアップ
- ・カウンセリングの導入
- ・最低賃金の保障
- ・らくさい治療院のさらなる周知と集客
- ・安定した経営ができる収支分析と目標設定

実績

- ・年間患者数=5,680人（前年比106%）
- ・年間売上=18,678,000円（前年比105%）
- ・平均賃金

総支給月数	就労時間	賃金支払総額	平均賃金月額	平均賃金時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
113月	15,231時間	17,359,373円	153,623円	1,140円

C. 法人

1. 事務局

概要

① 組織体制の見直し

1事務局、1事業部、1事業所、体制

- ・法人事務局
- ・三療事業部（盲人ホーム美鈴・らくさい治療院）
- ・洛西寮（洛西寮・ちくりん・らくさい作業所）

② 規程類の新規施行及び改正手続き

- ・就業規則の改正（正規職員就業規則の改正）
- ・特定個人情報等取扱規程（マイナンバー制度による）

③ 京都市関係

- ・事業所変更届
洛西寮施設入所夜勤職員未配置による減算手続き
- ・補助金
盲人ホーム事業補助金
民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備、借入金元本返済）
民間社会福祉施設 施設整備利子補給金（借入金利息助成）

④ 助成金関係

- ・社会福祉法人清水基金より補助金（点字製版機購入）
- ・独立行政法人福祉医療機構より貸付資金（エレベータ改修工事）
- ・伏見稲荷大社附属講務本庁より寄附金（作業机、椅子の購入）

⑤ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行・ホームページの更新

- ・機関誌「楽西」については年2回（7月と1月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。
- ・ホームページについては、法人事務局において「社会福祉法人現況報告書」の掲示等更新をした。

成果

- ・正規職員就業規則改正への実施（平成28年4月より実施）
- ・次年度点字製版機新規導入（平成28年7月末）
- ・エレベータ改修工事完成（平成28年6月末）
- ・ちくりん・らくさい作業所作業机、椅子の導入（平成28年3月18日納品）

課題

- ・非常勤嘱託職員の就業規則の策定
- ・給与規程の改正（就業規則改正による）
- ・洛西寮施設入所夜勤職員の配置と複数化の検討

実績

- ・事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・ちくりん ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 生活介護（20名） 就労継続支援B型（20名）	平成23年10月1日 平成23年10月1日 平成25年4月1日	40名
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	昭和57年4月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	昭和52年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和57年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	平成25年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成26年3月1日	

理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	27	平成 26 年度事業報告並びに決算案について	理事 6 名 監事 2 名
11	25	洛西寮エレベータ更新に伴う医療機構の借入等	理事 8 名 監事 1 名
2	24	全国共済退職制度の改正に伴う加入継続等	理事 6 名 監事 2 名
3	23	平成 28 年度事業計画及び予算案について ほか	理事 7 名 監事 1 名

・評議員会

月	日	内 容	出席者数
5	23	平成 26 年度事業報告並びに決算案について	理事 3 名 評議員 16 名 監事 2 名
10	24	新理事の選任ほか	理事 3 名 評議員 15 名
3	19	平成 28 年度事業計画及び予算案について等	理事 3 名 評議員 14 名

・監査会

月	日	内 容	出席者数
5	23	平成 26 年度事業報告及び会計監査について	理事 1 名 監事 2 名

・法人運営会議

2 箇月 1 回

・法人事務局会議

月 1 回

人事

- ・採用 らくさい作業所生活支援員（1 名）
- ・産前産後休業～育児休業 らくさい作業所職業生活支援員（1 名）
- ・退職 盲人ホーム美鈴施設長、洛西寮ちくりん生活支援員、洛西寮施設長（3 名）

法人登記事項

- ・資産の変更登記（平成 27 年 5 月 29 日）

2. 点字出版施設「紫野点字社」

概要

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他の受注では、保健福祉局・行財政局・政策企画局・文化市民局・上下水道局・都市計画局・選挙管理委員会などから市民しんぶん挟み込みタブロイド紙の点字版を製作した。

また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。

京都市以外では、社会福祉協議会や視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

大口では、社会福祉法人日本盲人福祉委員会の視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、島根県議会議員選挙の点字公報の一部を担った。

成果

- ・視覚障害者やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
- ・視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
- ・らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。
- ・過去5年間では、製版と点字シールで最高枚数を記録した。

課題

- ・市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
- ・市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
- ・らくさい作業所点字印刷能力と受注への調整
- ・京都市への入札における競争力のある価格の検討
- ・製版機の更新
- ・後継者の育成

実績

作業内容	枚
製版	6,137
塩ビ版印刷	525,338
パソコン製版	535
パソコン印刷	7,109
点字名刺、はがき	2,592
点字シール	4,033
発送	2,593
墨字印刷	33,909
墨字入力	3

3. 京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

概要

① 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業は、対象者数 185 人・延派遣回数 450 回で、最近 3 年間毎年増加を続けている。北部・南部それぞれに地道な連携作りや啓発活動を進めてきた結果である。

今年度は特に、城陽に南部アイセンターという視覚障害者にとっての拠点ができ、大ききく、当訪問相談事業の一環として週に一度相談日を設けている。今まで情報が届きにくい状況であった視覚障害者に対して、相談できる機関の存在を知らせ、心理的更正や福祉サービス・社会参加へのつながりを作る機能として大きな役割を果たしている。

また、北部では昨年度より件数こそ増えなかったものの、関係機関との連携は年々広く深くなり、ケース会議やネットワーク会議を重ねることで、地域の医療・福祉・教育などと共通の認識を持ちながら対応が出来るようになってきている。社会参加の機会が少なく、様々な情報を得にくい環境下におかれている視覚障害者が潜在的に相当数いることは疑う余地もなく、本事業の果たす役割の重要性が結果となって現れている。

② 南部サテライト事業の取組

本格実施から 4 年目を迎えた定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）も、地域で定着が進み、京田辺、宇治、長岡京で毎月 1 回、久御山、木津川では不定期に開催をし、全会場で合計 43 回開催、延べ 455 名の当事者が参加している。

内容は、相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加できる機会を提供するなど、社会参加が難しい視覚障害者にとって、生活の質を向上できる大変有効な支援事業である。

③ 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センターと京都ライトハウス、京都視覚障害者支援センターが共催して実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加し、またその場では解決しないニーズに対しては、後日訪問やサテライト、アイセンターでの相談で対応している。

内容：個別相談・ロービジョン相談・視覚リハ訓練紹介・視覚障害者用機器・盲導犬・講演等

成果

- ・補装具、日常生活用具、機器の紹介・活用方法についての支援
- ・障害年金請求申請手続きの説明など、経済的問題解決に対する情報提供と支援
- ・失明後の障害受容相談支援と生活訓練への連携
- ・福祉サービス、制度利用の適切な情報提供と行政への連携
- ・介護保険利用者に対する制度利用の支援等、介護サービス事業者との連携

- ・福祉事務所との連携と最新機器などの情報提供
- ・一般就労の継続や新規採用及び福祉的就労の支援
- ・視覚障害者の社会参加の場の提供と生き甲斐創出
- ・地域ボランティア活動との連携・協力
- ・南部地域拠点（サテライト）事業による相談支援拠点の創設
- ・南部新拠点（城陽市・南部アイセンター）の相談業務支援

課題

- ・対象地域が広範囲なことに加え、視覚障害に関する相談の潜在的ニーズの掘り起こしによる相談件数の増加・相談ケースの深刻化により、配置されているスタッフではマンパワー不足が生じている
- ・北部の職員は、週2回勤務の時間給体制で、このシステムを変えない限り、運動の積み上げや戦略の継続はできない。また、明確な組織システムがないため国や府からの通知文や情報が伝わりにくく、仕事に必要な書籍などは個人で購入しなければならないのが現状である
- ・次年度予算の増額による新たな相談体制の構築と、尚且つ不足している職員配置、北部巡回相談用の車購入や維持管理の支援など、課題が山積している
- ・市町村窓口や医療機関・福祉機関に対する本事業のさらなる周知と協力支援が必要である

実績

- ・過去5年間の相談件数比較（延回数）

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
369	307	424	450	450

- ・南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数（延べ）
京田辺	12	84
長岡京	12	121
宇治	10	142
久御山	1	4
木津川	1	6
散策・企画	7	98
計	43	455

・府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
5月29日	舞鶴市	舞鶴市西駅交流センター	11:00～15:30
7月27日	亀岡市	亀岡市役所市民ホール	10:30～15:30
9月18日	城陽市	南部アイセンター	10:30～15:30
11月27日	京丹後市	弥栄病院	11:00～15:30
1月28日	木津川市	京都山城総合医療センター	10:30～15:30
3月17日	向日市	向日市福祉会館	10:30～15:30

4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

概要

- ・平成24年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなった。
- ・入所利用者を優先して、計画を立てている。
- ・ピアカウンセリングを導入し、利用者のカウンセリングを行う。

成果

- ・アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催
- ・ピアカウンセラーによる全員のカウンセリングの実施

課題

- ・相談支援専門員が施設生活支援員と兼務しているため、時間確保が困難
- ・通所者の場合、西京区の事業所にもかかわらず、他区、京都市外、京都府外の利用者の計画相談を受ける時があるが、十分な対応をとることができない

実績

・計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	8	2
5月	3	5
6月	1	4
7月	8	4

8月	0	1
9月	1	3
10月	1	3
11月	0	1
12月	1	1
1月	0	2
2月	5	2
3月	1	2
合計	29名	30名

・ カウンセリング・・・26名（延べ人数）

5. 主催行事

① 第30回 洛西寮まつり

概要

開催日時 平成27年9月5日（土） 11時～15時

会場 障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内容

- ・ イベント（利用者自治会洛友会による合唱、佛教大学お笑いサークル showcase、4Disabilities、ドゥニヤカン・フレンズ）
- ・ 模擬店（焼きそば、たこ焼き、からあげ&枝豆、かき氷、ポテト、ビール、ジュース、パン屋さんによるパン販売、ボール入れ、洛友会コーナー等）
- ・ マッサージ無料体験
- ・ 製品販売（京都市洛西ふれあいの里授産園、大原野の杜、さわさわ、リ・ブラン京都西京、洛西寮後援会、洛西寮利用者家族有志、洛西寮自主製品）
- ・ 視覚障害体験（点字の名刺作り、アイマスク体験、卓球バレー、機器紹介等）

成果

- ・ 例年の夏日を外して開催したが、過ごしやすい天候で、多くの地域住民が来場し、盛大な洛西寮まつりとなった
- ・ 早い段階で、飲食関係が完売した
- ・ 開催時季をずらしたことで、暑さ対策・節電対策を解消できた
- ・ 利用者家族の有志がフリーマーケットで参加協力した
- ・ 開催を知らせるため、例年より2週間ほど早く配布し、当日は横断幕や立て看板で洛西寮まつりの開催を知らせる等、宣伝・周知を強化した
- ・ 体験コーナーの卓球バレーでは、利用者と来客者が一緒になって取り組んでいた
- ・ 本会場とマッサージ会場が200メートルほど離れた場所にあるが、宣伝と誘導に力を入れた
- ・ 本法人が運営する新事業について、多くの方々に広く知っていただく良い機会となった

課題

- ・来場者増に伴い、飲食が早くに完売
- ・飲食場所の拡張
- ・来場者数の把握方法
- ・模擬店の利用者希望の確保
- ・法人負担金の設定、それに伴うイベント等の企画内容の検討
- ・開催時季の検討
- ・家族と利用者のふれあいの場の提供
- ・利用者参加拡大
- ・近所の方への周知の仕方や、チラシの配布時期・場所の検討
- ・学生ボランティアの確保及びボランティアの配置
- ・駐車場の借用

実績

来場者：約 400 名

協力ボランティア：

55 名（登録 32、実習生他 8、みやびワイズメンズクラブ 5、利用者家族 10）

後援・助成：京都市社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業団、

京都市住宅供給公社洛西事業部

後 援：京都府視覚障害者協会、読売光と愛の事業団

協 力：みやびワイズメンズクラブ

② 第 30 回法人研修旅行

概要

開催日時：平成 28 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）

行 先：蒲郡温泉・伊勢神宮方面

内 容

1 日目：味噌カツ・きしめん、イチゴ狩り

2 日目：松阪牛、伊勢神宮内宮・おかげ横丁

宿 泊 先：ホテル竹島

成果

- ・寒い時期の実施だったが、2 日間通して晴天に恵まれ、のんびりと過ごすことが出来た
- ・味覚狩り、御当地グルメ、試食等、視覚障害者が楽しめる企画を行うことが出来た
- ・事前の打ち合わせにより、食事制限のある方にも十分な対応をしてもらえた

- ・宴会ではボランティア・職員を含めた事業所単位で演目を出し、大いに盛り上がった
- ・旅行会社3社に見積もり・プラン作成を依頼。結果、充実した内容になった

課題

- ・ボランティアの確保・養成強化
- ・当日の急病者の対応への体制づくり
- ・バス料金値上げ等による予算確保・日程調整
- ・大所帯、ニーズの多様化、障害の多様化による旅行の在り方の検討

実績

過去5年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
23	淡路島	50人	22人	13人	85人
24	焼津	45人	20人	16人	81人
25	北陸	49人	23人	17人	89人
26	和歌山	46人	21人	19人	86人
27	愛知・三重	48人	20人	20人	88人

③ 第5回西京区視覚障害者支援ボランティア養成講習会

概要

開催日時：平成27年5月26日（火）・5月30日（土） 10：00～16：00

（オプション＝6月2日（火）・6日（土） 13：30～16：30）

会場：障害者支援施設 洛西寮 会議室

内容：視覚障害についての講義、弱視体験、アイマスクでの昼食、手引講習など

（オプション：点字・朗読、利用者との近所の買い物）

- ・西京区社会福祉協議会、京都府視覚障害者協会との共催で開催した結果、参加者・講習内容、外部講師及び関係ボランティアサークル等の協力支援が広く得られた

成果

- ・洛西寮でのボランティア講習会の第5回が開催できた
- ・西京区社会福祉協議会との共催により、広範な宣伝と補助金による運営支援を受けることができた

課題

- ・養成後の施設側の再講習及び支援技術向上に向けた学習の場づくりの未整備
- ・ボランティア登録後の継続が難しい。
- ・参加者数の低迷が続いている。

実績

参加者数 6名（洛西寮ボランティア登録者数5名）

6. 共催事業

① 第49回白杖安全デー（京都市内）

概要

日時：平成27年11月15日（日）13時～15時

会場：京都市役所前広場

テーマ：「白杖見たら声かけて『何かお手伝いしましょうか?』」

参加者：約170名

成果

- ・危ぶまれた天気も回復し予定どおり集会とパレードが行われた。
- ・北部、南部で行われた白杖安全デー集会の報告、外出中の声かけによる“うれしかったエピソード”などの発表を行った。
- ・集会後は、カラフルなバンダナを身につけパレードに出発。シュプレヒコールをしながら、市役所前から烏丸御池を南に下がり、四条烏丸で解散となった。

② 第41回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

概要

開催期間：平成28年1月15日（金）～18日（月・祝）10時～18時

会場：大丸京都店6階イベントホール

内容：

- ・絵画コンテスト＝小学生を対象にした絵画158点を展示
- ・体験コーナー＝ブラインド喫茶、点字体験、ロービジョン体験、ゲームコーナー、機器展示をクイズで回る体験ツアー形式にしたことでコーナーを横断して体験出来るように工夫。その他、白杖体験、誘導體験、音の3D体験コーナー等は昨年まで同様
- ・販売コーナー：関西盲導犬協会、FS トモニー、洛西寮

- ・視覚障害者ボランティア連絡会の展示コーナー
- ・催し：お箏の演奏等各種ライブ、銅駝美術工芸高校研究発表、講演、体験班の発表
絵画コンクール表彰式 等

参加者：約 1,400 人（4 日間）

③ 第 33 回 視覚障害者京都マラソン大会

概要

開催日：平成 28 年 2 月 7 日（日）

会場：西京極総合運動公園陸上競技場及び周辺道路

参加者：4 名（洛西寮）

成果

全員が完走できた。

課題

練習時間・手引不足

継続的な参加者が困難

総括

洛西寮利用者の入賞者はなかった。

わかさ生活が方向性・趣旨の違いが現れてきたため、共催から外れ資金的にも苦しい大会であった。様々な要因から、会場はもとより、今年度でマラソン大会としては終結することになった。